平成20年６月橋本市議会定例会会議録（第３号）その６
平成20年６月10日（火）

（午後２時30分　再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番12、10番　平林君。

〔10番（平林崇行君）登壇〕

○10番（平林崇行君）ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問を行いたいと思います。

戦前の日本は、お国のためなら喜んで死んでいくことが大切だと国家が教えた独裁国であった。しかし、戦後の民主主義というのは、生きる目的を自分自身で見つけていく社会である。よって、個人が尊重されるのである。むろん、社会の秩序さえ乱さない範囲だが、個人が尊重されるということは、権利というものが常識や法律の中で最大限に認められることである。生きる権利、投票の権利、言論の自由と、今の私たちには実にさまざまな権利が与えられています。そして、与えられた権利を正当に主張することが認められ、戦後の日本はすばらしい自由主義国家であります。

しかし、一方では、権利の反対として課せられた義務をないがしろにして権利ばかりを主張することです。独裁主義と民主主義との大きな違いは、人の話を聞かないのが独裁主義、人の話を聞くのが民主主義である。だから、民主主義社会の我が国は、みんなが内容もレベルも違う意見を出してくるので、なかなか１つにまとめられず、独裁とは違い、どうしても時間がかかります。しかし、いくら時間がかかっても、出てきた結論には多くの意見が反映されます。歴史的に見ても、多くの意見を言っている時代のほうが、１つの意見だけしかまかり通らない時代よりはましである。

しかし、今日において、意見は言うが言いっぱなし、自分自身は何もしない無責任な人・組織が多く見受けられます。その組織の代表が行政であると考えます。１つのことを行うとき、一部の関係者の意見は聞くが、利用者や必要とする人の意見は聞くふりはするが、自分たちの意見は曲げない。完成したものが多くの市民の皆さまから喜ばれなくてもだれも責任はとらない。借金だけは残す。結果、長年にわたって見えなかった多くの問題が今日発覚し、今、大きな問題として取り上げられています。

当市も例外ではありません。市民の皆さまからも「橋本市は大丈夫なのか」「未来に明るい展望が見えない」など、厳しい意見をいただきます。そこで、今回の私の質問ですが、橋本市の活性は市民の活性との考えで地域活性について質問いたします。

地域活性について。

①私は、地域活性とはその地域に暮らす皆さまが多くの利益を得ることが地域の活性につながると考えます。木下市長のごみ、花いっぱい、企業誘致などの政策は中長期的には非常に大切であると考えるが、今、短期的において地域活性化につながる施策はありますか。

②生活の基本的な要件として衣食住が必要とされています。その中でも食は重要で、当市も食に携わる農業の仕事をしている人が一番多いと考えます。農業の活性こそが地域の活性と考えますが、いかがですか。

③農業の活性は、農産物の価値を上げることが重要であると考えますが、何か策はありますか。

④今後の農業政策はどのような展開を考えていますか。

以上、１回目の質問を終わります。

○議長（中上良隆君）10番　平林君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）平林議員のご質問にお答えいたします。

議員の言われる地域活性とは、その地域に暮らす市民が多くの利益を得ること、これはすなわち、橋本市に住んでよかった、住んでみたいと言えるまちづくりであると思います。

その政策として、市では市長を先頭にその目標を達成するための手段、施策としてごみ減量化、その減量化による生ごみを利用した花いっぱい運動の展開、また、市の増収を図るための企業誘致に取り組んでいます。

また、自然を生かした滞在型観光拠点整備としてのやどり青少年旅行村の整備や、へら竿やパイル織物などの地場産業の育成支援は、まさしく短期的に地域活性化につながると考えられます。

さらに、地域づくり事業としましては、山内区において菜の花畑への取り組み、杉尾地区では春の田植えまつり、秋の収穫祭などに取り組んでいただいており、このような地域の自発的な取り組みを積極的に支援し、市民との協働により地域の活性化を図ってまいりたいと考えております。

○議長（中上良隆君）経済部長。

〔経済部長（山本重男君）登壇〕

○経済部長（山本重男君）議員おただしのとおり、食は人間が生きていくために不可欠の要素であり、その食を支えるのが農業です。その農業を活性化させることが地域の活性化の大きな柱となります。

本市は農業の盛んな地域であり、果樹、米、野菜、鶏卵等、数多く生産されています。しかし、他地域と同様に農業者の高齢化が進み、世代交代がなかなかうまく進みません。農作物の価格が安定せず、農家の所得が不安定なこともその大きな原因となっています。

そのような中で、昨年から中国産のギョーザが農薬に汚染されていた事件が発生いたしました。原因は定かではありませんが、地産地消が注目を浴びることになりました。本市におきましても、杉尾の古代米、恋野の有機栽培米、山田・隅田のゴボウ等、地元密着型の栽培に取り組んでいただいております。この機会にさらに農業を活性化するための具体的な方策を考えてまいります。

農作物の価格を上げる方策は一朝一夕にできるものではなく、効果を上げることは容易ではありません。例えば、市内には紀北川上農業共同組合がやっちょん広場を経営していますが、この施設は農家の所得安定に大きく寄与しています。また、橋本市農業振興推進対策委員会では、毎年、柿の販売を促進するため、都市への販売促進キャラバンや都市住民を招いての交流会を行っており、橋本市の農産物のＰＲに努めています。

しかし、これだけではなかなか効果が限られています。例えば、本市にはかなりの遊休農地がありますが、活用に苦慮している土地が大半です。これらの土地を活用して、あまり手間をかけずに耕作でき、収益が上がる作物がないか、研究してまいります。

最後に、農業政策の展開でありますが、市財政が非常に厳しい現状では安易に資金を投入することはできません。まずは情報を収集し、成功している自治体の方策について勉強してまいります。青森県のように、リンゴの輸出で農作物の価格安定に成功した自治体もあります。本市も、その辺も含めて実効性のある方策を検討いたしますので、ご理解を賜

りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）10番　平林君、再質問ありますか。

10番、平林君。

○10番（平林崇行君）市長、私は今回の一般質問、やっぱり市長が一番心待ちにしておったかなという内容やと思っておるんです。市長は農業を重視してこられて、吉原で生まれて、幼少のころは土にまみれ、汗にまみれ、そしてまた西畑に行ってということで、農業に関してはスペシャリストの市長だと私は思っております。

ほんで、今の答弁、きのうの８番議員の答弁におきまして、少し残念な、何も施策のつてがないという部分の答弁になっております。確かに難しいでしょう。難しいからこそチャンスがある。おもしろいんです。だれができることをやったって褒めてくれません。できないことをやることによって皆さんは評価し、また､その人に期待をかけるんだと思います。これから④まで順次質問していきますので、どうか「ああ、それだったらできるんだな」というやる気が持てるように、市長、よろしくお願いします。

それでは、①。やどり、へら、パイルということで短期的に地域活性化につながると言いますけれども、へら、パイルに関しましては、今、現状あるんですよ。要は、今、本当に現状維持できるかどうか、世の中の景気が悪くなってきていますので、下がらないように、今の売り上げをしっかり確保するためには何をするかという部分での取り組みが非常に大きな課題になっています。へらにしても後継者の育成とか、いろんな部分で。ですから、先ほどご説明いただいた、今、短期的に地域活性化につながる施策には当たらないと私は思っています。

じゃ、このやどり、お聞きします。これで地域活性化でどれぐらいの人が潤って、どれぐらいの収入があるのか。そういう部分の地域活性化の数字は出ているんでしょうか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）突然のご質問で資料がそろっておりませんけれども、やどりにつきましては、今、お客さんの来場者数は7,000人ほどだったと思います。それで、計画では２万人を試算しているというふうに､私、記憶しております。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）突然ということですけれども、私も１回目の答弁で突然やどりが出てきたのでびっくりしております。

だから、本当に短期的にと言うておるんですよ。早いといったら来年からかかってもらうあれなんですけど、やどりはまだこれから建物の建築とか、いろいろ考えたら、開業はまだまだ先になりますわね。だから、今を現状維持するんじゃなくて、上げるために早期的に何をするかということを私、お尋ねしておるんですよ。ですから、こういうことが出てきて､７万7,000人から２万人という形でおっしゃっている部分も結構なんですけれども、もう一つ、この地域が潤うことで橋本市が本当に潤うのかという部分が見えません。

私のこの一般質問に対して本当に理解していただいているのかなと、ちょっと不安になりました。何か上のほうで物を言うて夢を語っているんですよ。検討するとか云々というのは行政では死語と言われていますけど、何もしないということですけれども。あまり英語は好きじゃないですけれども、アンダースタンドという言葉、よく理解するということでね。アンダースタンド、これを２つに分けたら､下に立つ｡要は､目線をもっと下げて、本当に橋本市民が何を思って、何をしてくれることによってこの地域が活性化するんだな

という部分の、はよ言うたら、すぐできるようなことを答弁いただきたかったんですけれども、いかがでしょう。ありますか。このやどりについては、言っていただいた３点について、速効的に何かありますか、手だての中で。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）現在、橋本市で進めている施策を言いますと、頑張る地方応援プログラムの５項目を重点施策で進めてございます。それ以外の施策というのがあまりないかなというふうに考え方でございます。

そういうことで、この５項目の元気なまちづくりプロジェクト、子ども・子育てのびのび夢プロジェクト、観光振興・交流プロジェクト、それから安全・安心まちづくりプロジェクトと花と緑のリサイクル事業ということであるのですけれども、これを仕掛けるのが19年から21年ということで、その短期間に仕掛けるわけでございます。

ということで、短期と長期と分けるという観点からこういう仕掛けをやっておるわけでないような状況の中で、効果が出てくるのがそういうところかなということで抽出させていただいたような状況でございます。ということで、速効的に、今、これを打ったからこれができるという施策は考えづらいのかなというふうに思います。とにかく、橋本市として施策でこういうことをやっていますということの中で選ばせていただいたという考え方だけご紹介したいと思います。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）はい、わかりました。

今の施策の中で、いろいろ聞いていまして、もう少し時間がかかるんだなと。それが完成されることによってこの地域も良うなる、中長期的な施策に当たるかなと私は思っております。ぜひともその政策におきましては、企業誘致とか花いっぱい、ごみ、こういう部分で大きな結果が出るように、数年かかっても結構ですので、それをやってください。

それでは、②の生活の基本的な要件として衣食住が必要とされています。その中でも食は重要でということで、食の部分に入っていきたいと思います。

私は、今回、橋本市活性化のために一番必要なのは、やっぱりその仕事に携わっている一番多い方のパーセンテージを少し上げることによって、かなり大きな地域活性化が行われると思っております。食というもの、私はずっと10年、20年前から食の大切さというのは言うております。最近になって地球温暖化だとか異常気象とかと皆さん言うてますけれども、私ははたち回ったぐらいのときに、地球上で人間が生きられる人口というのは約60億人と聞いておりました。今はもう65億人ぐらいかな、もっとあると聞いております。この間、テレビで80億人やと言うてました。ええかげんなことを言うんやなと。今、65億人でいろんなところで水害とか、いろんな災害が起きて、食糧不足が訴えられてきている中で、言う人は勝手なことを言うなということで、どういうことかなと。今、自然をいろんな施策の中で森を焼いたりするのが地球上で１年間に四国、あの土地の森林を１年間で失っていると、そういういろんな中でこれから80億の人間がどうして暮らしていけるのかなって。ですから、この食というもの、絶対に60億前後を回ったときに非常に大切なものになってくると私は思っていました。そのとおりの予想が当たってしまいました。

ですから、企業誘致、確かに大事なんです。しかし、企業というのはどこへでも逃げるんですよ、条件さえよければ。農業というのは土地なんです。土地は動かせないんですよ。ですから大事なんです。だから、そこに携わ

る人たちをしっかり支えていく施策というものが非常に必要になってきます。

きのうの８番議員の中で、休耕田の活用の中で対策委員会を組んで考えていると言うたけど､そのメンバーを再度お教え願えますか。農地委員会の方が３人かな。とか、そんなん言いましたけど。それと、あと、その人たちが本当に今現在、農業で御飯を食べている人なのか、これから将来農業を自分の身になって考えられる人たちにその委員会の中で発言していただいているのか、その辺、ご説明願えますか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）申しわけございません。その資料につきまして、今、手持ちではございません。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）ただ今のご質問でございますけれども、その前に、木下市長は夕立の間に合わんというようなことを言われたんですけれども、先には効果が出てくるけれども、直ちにはというようなことをいろいろ言われました。そういう点も反省すべきところはせないかんと思うんです。

今のご質問は、私が市長に就任させていただいてから、やはり何かを興していかないかんということで、農業政策としては、まずこれをしようということで組織を。それで、申し上げたように、農業委員会から３名。この方らは、名前はさておいて、普及員の資格を持っている方、あるいは農協の技術員の専門職員の方が農業委員をなされておるので、私は推薦もし、会長から選出されたのが３名です。そして、生産者の３名。これは専業農家の方で、生産者の代表であります。ヤマハシ選果場の販売委員長、そして学文路のマルガクの販売委員長、それから信太の九度山での販売の副委員長、これ、専業ですね。そういう方が３名。それから、県からは出先の振興局の農林水産部長、農業振興課長、農業振興係長の定数３名。そして、農協からは、組合長の代理で専務、そして営農部長、営農課長の３名。その定数を私、決めまして、そして、何回か会議をしながら取り組んでおるというのが現状であります。

それには、あと、詳細に言いまひょか、内容を。

（「いやいや、いいです」と呼ぶ者あり）

○市長（木下善之君）それで、年に何回か議論しながら、東京へ行って柿を売ったり、また､市場から呼んで懇談会をしたり､主婦連、消費者とも懇談会、どうしてしたらいいかという消費者の意見もせんど聞いたり、年に相当回数を開いておるということであります。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）そういうふうにいろんな方々が入られてやっているんですけれども、じゃ、本当にそれだけでどれぐらいの効果が出たのか、そして、将来的に橋本市の農産物が飛躍的に売り上げを伸ばせるようなことが先が見えたのか、その辺のこと、少しわかりましたら、お教え願えますか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）市役所が抜かっておったんですが、私がそれの委員長、そして経済部長、農業振興課長と係とというように16名の体制でやっておるわけであります。

それの成果のことですか。成果、簡単に生まれるんだったら事はやさしいんです。それほど難しいんですよ、これは。ただ、今現在煮詰めておることを要点だけ申し上げたいのは、昨年は奈良県に曽爾村というところがありまして、クラインガルテンの研究に行ってきました。そして、今年もこれを何とか前向

きに検討しようやという意見がございまして、また、さらに兵庫県多可町の八千代、そこへも先刻から視察に行ってまいりました。

これはどういうことかというと、クラインガルテンあるいはグリーンツーリズムとか、あるいは市民農園とか、大都市の皆さんに来ていただいて、こちらの皆さん、家を建てるんですよ。平たく言うと国庫補助金が２分の１、半分ありますから、それでその事業に引っかけて、そして、たくさん家を建てるんです。要約して言いますと、契約金に立ち上がって補助面積が四、五十坪ほど農地を貸しまして、そこで野菜をつくったりもするわけです。農業体験。契約としては、40万か50万円ぐらいの契約金をいただいて、そして、１年間は、奈良県の曽爾村の場合は50万円で利用いただいておるんです。八千代町の場合は40万円ぐらいでございました。１年間に、都市の団塊の世代の皆さんが来て、夫婦で来て、あるいは孫らを連れてきて、非常に快適な野菜づくりをして楽しんでおる。

そして、また、橋本市内でしたら、休みの暇なときには名所旧跡を車でずっと、高野山から橋本市内、どこへ行くかわからんけれども、広く観光も兼ねて遊んでいただくというようなシステムになっておるんですよ。それで非常に受けておるので。

その会としましては、市が非常に財政難であるので、市が主導するということは危険きわまる面もあるので、私の進めておるのは、組合法人をつくってくださいよと。それによって管理運営をすべてやりなさいよと。手続き等については市が応援しますけれども、借入金なんかも、半分補助金もらいますと、あとの残りについては利用料に応じて償還していくというシステムです。

そして、現状を見てみますと、都市と農村との非常に厚い交流がうまくされておる。これはやっぱり時代向きやと思うんです。本当にすばらしいと思います。橋本市みたいに近くのにそういうことをじたじたしてようせんようなことでは、わしも面目ないなと思いながら、さらに研究を今、続けております。実現してまいりたいと思うのでございますけれども、果たしてそれをやるためには寝食を忘れて法人格を立ち上げて、そして、その方が汗をかいてやらないと成功する試しがないですよ。簡単なものやないんです。

それは指導をできるだけして、そして橋本市の名声を高めていくということ、これがこれからの二、三年の間の一番の骨やないんですかな。そのことによって友達も来ますしね。どんどんと遊びに来るんです。そして、週に１回、土曜、日曜しか来ない家もあるでしょうけれども、やめた人は頻々に来られるわけであります。それによってやはりお金が絡んで、観光という面でね。それが帰りますと、またＰＲしていただける。

１棟や２棟じゃないですよ。多可町なんかは100戸から建ててますよ。そして、申し込みはまだ200人も300人も予約があって、こちら側も奈良県、奈良市、大阪、京都、その方が曽爾村は30棟。１棟何ぼかかるんよというと、800万円はかかるんです。施設。そして、それを30棟建てておるんですが、予約があと60人も70人も待っておるというような状況です。それは非常に好評であるということは確かであります。そして、農業を体得してくれるんですね。

ゆっくり話したら１時間はかかりますので、かいつまんで申し上げたことでございます。ほかにも細かいことはいろいろしていかんならんと思うんですが、やはり、やっちょん広場が農協の軸になっておりますから、皆さん、体力に似合う作物をつくって、8,000トンの柿は選果場がちゃんと軌道に乗せていますから、

野菜なんかもあそこを頼って、採算が合えば適宜つくって、あそこへ出していただいて、喜んでいただけるということが大筋としてね。それ以外に、大きな産地づくりをしていこうかというと、橋本市の地形とか年齢とか、すべて勘案したら無理ですよ。いい知恵がありましたら、ひとつ、また、平林議員からお聞かせいただきたいと思います。

○議長（中上良隆君） 10番、平林君。

○10番（平林崇行君） 非常にすばらしい曽爾村ということですが、私はその案についてはいささか不満があります。というのは、先ほど言うたように、外部から入ってくる人間に対してなぜそういうふうな応援をせなあかんのかと。私は、まず、農業に従事している、その土地に暮らしている人間の安定ということをお願いしたいんです。ですから、橋本市、かなり住民の方がいらっしゃいますわね、農地にかかわっている専業、兼業を含めて。ですから、その人たちの活性をすることによって地域が活性するという部分での展開ですので、そういうふうな外から人を呼んでくるとか、観光客はいいですよ。だけど、そこで百姓してもらう必要はないと。

先ほど後継者の問題もおっしゃいました。後継者がいてない。当たり前なんですよ。そういうことをやっていて、地域の人のもうけを考えていないような政策を打っていたら、だれも継ぎませんでしょう。百姓をやって、お父さんが汗まみれ、泥まみれになっていてても、一生懸命収穫した後には「おい、今回、これだけ収穫があったぞ。みんなでハワイへでも１週間、２週間、旅行に行こうやないか」とか、「おお、今回もうけたから、息子、何か買うたろか」とか、そういうふうな農業であったら、息子さんも継ぐんですよ。継ぐ可能性が多いです。

あら川のほうで桃御殿であるんですよ。桃で財をなしている人が。その人は、全部自分で物を売っております。私は最近、お百姓さんによく言うんですよ。「皆さん、何でこんなお百姓さんが悪うなったかわかりますか」って。物をつくる人が、自分で自分がつくった物に対して値をつけられない。柿だったら柿１個何ぼなんですか。これは200円で売れる。300円で買うてもらわな困る。こういう意識を持っていただくことが本当に大事やと僕は思うんです。だから、200円で売れるものが300円で売れた。ほんなら、もっと生産性を上げていいものをつくったら高値で売れるじゃないかと。この意識を持ってほしいんです。

私、一般質問をさせていただくのは、先ほどおっしゃったように、やっちょん広場、あれができたことによって農業の方の目の色が若干変わってきたんですよ。というのは、私も仕事で行きます。秋とかだったら行きますやろ。そしたら、昔は「柿、あるか。家に。何あるか」。箱ごとコンテナごとくれるんですよ。「自分でつくったものをもったいないのと違いますのん。私らにただで」と。「いやいや、１杯1,000円、2,000円のものだから、こんなもん置いておいても減らないから持って帰り」と言われて何軒からももらいます。私もはくのが大変ですけど。市長、今、くれないんですよ。本当に。いいことなんですよ。やっちょんとかへ行っているんでしょうね。

だから、私は、その施策をおっしゃってほしいんです。働いている市民が潤うような施策を言いたいんです。先ほど、例えば柿の販売とか、そういうものに行っていると言いましたけれども、企業誘致、一生懸命やってくれています。どえらい営業出てますわね。いろんなところへ行って。理事を先頭にいろんな会社を訪問して云々て。じゃ、ほんだら、橋本市は、農業でつくった商品を企業誘致と同じように本当にＰＲして売り込みに行って

いただけてるんですかね。九州の東国原知事がやっている、まあ、あれほど数は多くないですからね。あれは県でやっています、県知事やから。橋本市もそういうことをやっていただいているのかどうか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）農業というのは、額に汗をかいてやるのが農業で、口で農業をするんじゃないんですね。わしは農業のことは知り尽くしてますよ。こない言うて悪いですけれども。その者が言うんやから確かなんですね。そりゃ、口では農業はできません。それだけに難しい。

そういう中で、先ほどから地元の農業と。そりゃ、地元の農業について緩めるわけにいきませんし、育成強化せないかんのはよくわかるんですけれども、ここまできますと、ある程度、自助努力。自分で作物もつくって、国や県や市が進めたものにまともなものはないんですよ、今まで。行政が進めたもの。一番大きなのは皆さんご存じやろう。昭和36年、農業基本法が制定されて、畜産３倍、果樹２倍、水田をようけつくれ、八郎潟8,000ha、何千億とかけて。まあまあ、もうやめとこか。難しいんですよ、それは。

それで、小さい話になりますけれども、できるだけ。この間からも朝日新聞の皆さんとも懇談したんですが、橋本は昔から大きなゴボウの産地が何箇所もあるので、これをひとつ、またつくれる人はつくっていただこうやないかとか。小さいミニ集団でもいいんです。

曽爾村のことを申し上げましたけれども、これは、全部休耕田を廃園になっておるから、村として何とか再生したい、道を見つけようかということでやっておるという、そこを間違わんとくださいよ。立派な農地へ入れて、在来の人がほったらかしておいて、大阪の人を入れてと。それはさらさら全然違いますから。そういうことであります。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。落ちついて質問してくださいね。

○10番（平林崇行君）市長、いろんな例を挙げてくれるのはいいんですけれども、悪いですけれども、今回は私の質問に対して端的に答えていただきたいんです。

確かに、今おっしゃったように、国・県の行政政策、ええことなかったと。だからこそ、今までやったあかんことに対して行政がぴしっと改革をして、橋本市は農業を支えていくんだと。農業の生産を支えるなんて言うておるのと違うんですよ。販売を促進してあげることは大事じゃないですかって。だから、企業誘致しているんでしょうって。地域活性のために企業誘致しているんでしょう。だから行ってるんですかって。そこで、「農業のことを全部わしはわかっとる」と言われたら、私はそれに対して言いません。

３Ｌの柿がありますわね。ちなみに、東京の百貨店で１個どれぐらいで販売されているかわかっていますか。端的に。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）私はあんたに尋ねたいですよ、それは。農産物価格の動向というものは、柿でも今は皆相対取引で、何ぼとってくれやな渡さんというところまで来ておるんですよ。ほいで、東京の地下のタカノとか、ヨーカドーとか、秋、私は東京へ行きますと、毎回30分、地下でじっと買い物、柿の。見ておるんですよ。そうしたら、だいたい1,000円から1,200円で。いつも1,000円切れたことないです。だいたい４Ｌですよ。３Ｌじゃない、４Ｌ以上ですよ。1,000円から1,200円。いつも見ております。

それで答弁とします。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）市長、それぐらい熱が入ってくれたらありがたいです。私も質問しがいがありますので。少し落ちついてやってください。

確かにそうなんですよ。４Ｌ以上は1,000円以上、ほいで、３Ｌも、いいのは千二、三百円で売っています。百貨店で。十分。私、よく、ほかのも見ます。今、山形のサクランボ、１箱10何粒入りで１万円。この間出てきた種なしのビワ､たしか８個入りで３万6,000円。だから、物の商品価値というのは、そういうふうに上げていけるんですよ。ですから、小さいものをたくさんつくるより、大きいものをたくさんつくったほうがいいんじゃないですかって。だから、そのためにいいものをつくってもろうたときに、生産者が何が一番必要かと言うたら、販売ルートなんですよ。つくっても売れない、これが一番つらいんです。やっぱりつくって、いい値で高値で売れれば生産者は頑張るんですよ。生産者が頑張れば、それを見ている息子さんたちが頑張って､「百姓でもうかるんであればやろうかな」、そんな気になるのは当たり前なんです。

私は何も難しいこと言うてません。単純な話をしております。ですから、橋本市も生産者がちゃんと出荷できるように、要は、応援できる部分はないんですかという部分で行政ができること、これを少し、私、提案してみますので、また後でご意見なり答弁していただいたら結構です。

ですから、生産率を高めようと思ったら、消費という部分に注目せなあきません。ということは、僕言うんですけど、橋本市で１日数千食の消費がある小学校並びに中学校の給食、これに対する食材、そして病院もありますわね。全部任せてあるから、これはある程度なんですけれども、これがいいか悪いか別にして。当然、保育園ありますわね。これらに対して､やはり地元の農産物をつくる人に。いいものは高値で売ってくれたらいいんですよ。小さいものとか、あまり商品価値のないようなものがどうしてもできます。ご存じやと思います。すべていいものができると思いません。くずとは言いませんけれども、何の心配もない、栄養価値も何も関係ないものを安く買い上げてくれる、そういうシステムがあったら、つくる者はものすごい助かるんですよ。そういうふうなことを市で一度。来年から、これ、できますよ。花いっぱいに800万円つけておるんでしょ。何百万か予算つけてあげて、そういうことを試みしたら、来年からすぐできると思うんですけれども、いかがですか。こういうことは不可能なんですか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）非常にお説ごもっともでございます。それは、今でも給食センターへできるだけ出したり、おみそなんかは相当な量を給食センターへ。これは生活改善友の会とか、そういう地域の集団の女性がおりますからね。特に高野口の上中、下中、わしらもみそのつくり方の指導へも行っておるんですが。ただ、問題は、輪作体系をしっかりして、そしてミツバとか洋菜とかパセリとかあるでしょう。春菊とかたくさんあるんですが、それをこれだけつくってくださいと言うと責任持たないかんところに難しい問題が若干あります。

しかし、できるだけそれを給食センターと円滑にやれるように、病院とかいろいろあるんですけれども、自給自足等々、できる限りご期待に沿うように行政として、国・県は別として市はしっかりと踏まえて、今後取り組んでいきたいと思います。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）何ぼかあるのは私も知っています。私が言うてるのは、そういうふうな計画性をもって行政が組まなあかんと違いますのかと。例えば学校の給食でしたら、１年間のメニューをしっかり出して、これに対して生産者の方を集めて、ホウレンソウはどの時期に幾ら要る、ニンジンは幾ら要る、大根は要る、言うたように、春菊は幾ら要る、「皆さんできるんですか」と。「できたら橋本市は発注いたします」と。そういうことが、別に新たな予算をつける必要はないと思います。若干高いのを買わなあかんのかもわからんけれども、安全面を考えれば、それぐらいの少しの補てんをしていただいたら。私は、農家の人が頑張るシステムをつくってあげてくださいと。

市長がおっしゃるように、「もう無理や、わしら、そんなもんようせん」というのであれば、それはよろしいがな。「いやいや、あんたら、してもらわな困るんや」て、僕、そこまで言いません。頑張ろうとする人を応援してあげる、これは行政やと僕は思うてます。これは来年からでもできますやろ。そしたら、別に新たな大きな予算も要りませんやんか。きちっと計画を立てて、橋本市も農家の方の生産、売り上げに対して貢献するという部分があってもいいと思います。

そして、あと、もう一つ。じゃ、今の生産性といえば、橋本市は田んぼ、１反とかいうて、段々になっていますわね。50㎝、１ｍのをよく見ます。ああいうものを１枚の大きな２反、３反にして大型農機が入るようにすれば、若い人がよく言われる会社をつくる部分の中で、農機具の活性化によって若い方がもっと自分たちの思うておる農業を考えていくと思いますよ。いかがですか。そういう施策もできないのか。恋野はやりましたけれども、そういう圃場整備があって、きっちり安定できるように。

そうすれば、プラス、その辺のスーパーに売ってはいかがですかと私は言うんですよ。交渉したらどうですか、橋本市も。松源、Ａコープ、うちの裏に吉野もある。地域の野菜を売ってくれませんかって。行政もしっかり応援しますからって。別に難しいことじゃないと思いますよ、私は。どうですか。そういう棚のあれと、もう１個何やったかな。忘れましたけど。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）圃場整備の問題ですけれども、こういうのはきのう申し上げたとおりであります。いよいよ今年から、あんたの地元もやるんですよ。知ってますか。いやいや、圃場整備のことの区画整理をして近代化しなさいよというお尋ねですけれども、吉原地区で６億6,000万円ほど、これから５年間に圃場整備、農地造成でございます。そして、柿がある程度大きくなるまでの間は、全部野菜をつくるということで進んでおるんです。

圃場整備についての区画整理事業によっての近代化を進めていきたいというお尋ねでありますので、その程度にしておきたいと思います。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）ただ今のご質問でございますが、圃場整備につきましては、恋野地区におきまして県営の圃場整備が行われました。

今、議員おただしの圃場整備ですけれども、ごく小さな圃場整備をして機械が入りやすく、作業効率のいい農地をつくっていくということだろうと思っております。それにつきましては、県単事業としてございます。小規模土地改良事業で受益者戸数が２戸以上で、かつ受益面積が２ha以下の場合でございます。今、

和歌山県では実施したことはないということでございますが、制度としてはございます。

以上です。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）そういう圃場整備もあるということで、和歌山県下では実施したことはないということは、やはり圃場整備、２軒でいろんなことをしても、圃場ですから、やっぱり自己資金が要ります。そのときに、お金をかけても売れないものをつくってだめだったとなれば、やはり皆さん、二の足を踏みますわね。最近、農業関係者の方はそういうことに鋭くなってきました。

私は、もう一つ、さっきの価格と別に農業の人に言うんですけれども、農業の人は金を使うことは知っておるけれども、金をもうけることを知らんと。やはり費用対効果というのをしっかりと出して、今まで国の甘い、そういう政策に乗っていたらだめやということを薄々感じてきてくれています。

ぜひとも、そういうことがありましたら、橋本市も何らかの対策でこぞって応援してほしいんですけれども、いかがですか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）経営の合理化、それから、機械化を図って経営の合理化をするということの中で、この小規模の圃場整備というのは大変有効だと思っております。

その場合、市の負担というものがついて回ります。この事業費の40％が市の負担になってきます。ということで、確かにいい制度でございますが、この辺につきましては、市の財政当局とも協議しながら対応していきたいなというふうに考えております。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）それでは、何番まで行ったかわかりませんけれども、最後の④ということで、市長のいろんな思いを聞かせていただきました。

そして、今回、私うれしかったのは、市長が一生懸命、熱弁で私に答えていただけたということ。さすが、農業を考えていられる市長やなと。それもうれしそうな顔で言うてくれましたのでね。必死になって。

方向性は若干違います、私とは。ですから、市長、曽爾村のことも参考には結構です。それは私は否定はしませんけれども、先ほど言うたように、来年からでもできる、橋本市は農業関係の人間を頑張れば応援してくれるんだ、こういうこともやってくれるんだ、農産物も買ってくれるんだ、そういうふうな計画を立てているんだという部分をもっと若い生産者の方にＰＲしていただきたい。やっぱり若い者の育成。若い人に頑張っていただけることでその地域も活性化します。当然、農業も活性化します。

資金を投入することができないと言いましたって、固定観念を外して、いろんなやり方があるんです。いろんな知恵を伺いたいと言うてました。市長、万のやり方がありますよ、私から言えば。いろんなやり方があります。首かしげてますけれども、首かしげたのを、何年か後は「うん、さすがだな」と言うていただけるように、私もこの問題については、これから食という部分が大事なことですので、市も金がありません。あるものを売ったらいいんです。タケノコ。竹が有名、橋本市は竹なんですよ。タケノコ１本3,000円で売ったらええんですよ、私から言えば。

そういうふうな市場を開拓したらいいだけですので、そういうことも踏まえて、市長、これがいいからとか、これがだめやとか、そういうんじゃなしに、もう少し柔軟な感じで、「あ、そういう方法もあるんだな」と。金をかけんと、本当にお金をかけても、少ないお金で地域活性化できる方法もあるんだなとい

うことも感じながら、最後、市長の思いを総括してください。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）平林議員の熱意は受けさせてもらいました。

今ほど、若い方にというご発言がありましたね。若い方というのはどこにおるんかなと思いましてね。農業をやっておる専業で50以下の方といったら４人ほどしかおらない。私の息子もそのうちに入っておるんですわ。そんなんですよ。そうして、50から60の間は10数人。これは男性をさいておるんですが。

さておいて、これから農業の後継者もやはり年々歳々充実させていって、魅力ある農業というものを構築していかなければならないと思っておるわけでございます。しかし、農産物の価格というのは、昔の40年代と奇想天外違うんですね。米価というのは、今の３倍か３倍半して普通ですよ。それが国の政策が誤ったのでこういうふうになってきておるということですね。それを克服しながら、ひとつ、光明が差すような農業振興に、担当部門、これからしっかりと市民の意見も議会の意見も聞かせていただいて、できるだけ、ここ二、三年できょうの議論したことの成果を出すように努力してまいりたいと思います。議会の皆さんの一層のお力添えをお願い申し上げたいと思います。

○議長（中上良隆君）これをもって、10番　平林君の一般質問は終わりました。

この際、40分まで休憩いたします。

（午後３時25分　休憩）